

平成22年3月15日(月)実施 外部評価結果

プログラム ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各プログラム／センターに関わる事項							
	平成21年度実績					平成22年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
栄養疫学 プログラム	4.29	4.14	3.86	4.43	4.18	4.29	7	<p>(I)各プログラム／センターに関わる事項</p> <p>【平成21年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生体指標プロジェクトに関しては、本プログラムの目標からは、ずれた内容になっていると考えられる。 ・栄養調査については今後良い方向への再検討が望まれます。 ・国民健康・栄養調査の期間の大幅短縮など、業務の改善努力を行っており、成果、業務運営ともに申し分ない。 ・生体指標プロジェクトのテーマ設定は適切であり、期待した成果が得られている。 ・毎年の調査と5年に一度の基準の作成など、多忙な定型業務の中で研究も熱心に行っている。 ・全体的に順調に進められており評価できる。 ・国民健康・栄養調査の対応率アップは調査効率にもつながるので、効果が上がる検討を願う。 ・国民健康・栄養調査は大変貴重な基礎データです。その集計、解析、発表の流れですが、随分スムーズに行われるようになりました。早い時期に健康・栄養問題がわかり、改善案のものが作れますね。食事摂取基準の作成にあたり、高齢者施設での食事の摂取状況調査の取り組みは有意義です。 <p>【平成22年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査、基準プロジェクト内容は妥当である。 ・増加する高齢者への対応もなされている。 ・食事摂取基準における高齢者の調査に期待する。 ・高齢者施設では食事摂取基準が実際にはどのような役割を果たしているか摂取量が少ない人をどうフォローするか課題です。

◎各プログラム／センターの評価項目

- a: 中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
 b: 中期目標の達成に向けてプロジェクト／センターは適切に運営されているか。
 c: 中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
 d: 調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
 e: 中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成22年3月15日(月)実施 外部評価結果

プログラム ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各プログラム／センターに関わる事項							
	平成21年度実績					平成22年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
健康増進 プログラム	4.00	3.57	4.29	3.86	3.93	4.00	7	(I)各プログラム／センターに関わる事項 【平成21年度実績】 ・運動ガイドライン作成における評価基準があいまいである。 ・長期的な心疾患病、臓器障害に注目したアウトカムを評価して欲しい。 ・子どもも対象として成果が上がっている。エクササイズガイドも利用もされつつある。 ・運動基準などに必要な基礎データの提供は意味深い。 ・各プロジェクトの調査研究は実践と結びついた成果が出ており評価できる。 ・20歳未満、70歳以上のエクササイズガイド策定が進んでいるとのこと。特に個人差が大きい高齢者では残された機能を維持するための運動効果も欲しいところです。歩数計を携帯に組み込んだ商品の一般化は即効果が見られるので、期待します。 【平成22年度計画】 ・重要な、かつ理屈不十分なエビデンスしかない研究として評価される。 ・忙しい社会人の休養に関してはどうでしょうか？ ・柔軟性の影響など、国民の運動のあり方の指針となる貴重な研究が実施され、成果が得られている。 ・成果の発信も併せた対応を望む。 ・企業との共同研究、製品化ができる分野だと思います。研究費獲得につなげて下さい。

◎各プログラム／センターの評価項目

- a: 中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b: 中期目標の達成に向けてプロジェクト／センターは適切に運営されているか。
- c: 中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d: 調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e: 中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成22年3月15日(月)実施 外部評価結果

プログラム ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各プログラム／センターに関わる事項							
	平成21年度実績					平成22年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
臨床栄養 プログラム	4.40	4.40	4.80	4.40	4.50	4.40	5	<p>(I)各プログラム／センターに関わる事項</p> <p>【平成21年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病発症リスクの高い人の発症予測法の確立と新しい治療法の開発が期待できる成果であり、高く評価したい。 ・糖尿病治療に大きく貢献する成果であり、今後の進展を期待する。 ・東京大学との連携が工夫され、優れた研究業績が挙げられている。 ・メタボリックシンドロームの解明に関わる研究成果が出ており、評価できる。 ・クスリの開発などにつながることを望む。 ・糖尿病発症のメカニズムの新しい発見、快挙です。今後、適切な薬剤の開発にはスピードが求められます。現在進行中の病気を持つ方に、最短で適切な治療ができるようお願いします。それでこそ研究成果が国民健康・栄養調査の利益に即結びつきます。 <p>【平成22年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・望まれる成果が出ると期待したい。 ・今後の成果を期待する。 <p>糖尿病の発症リスクを持つ人は出生からその後の食生活をどのようにしたらよいかの解明も期待します。</p>

◎各プログラム／センターの評価項目

- a: 中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
 b: 中期目標の達成に向けてプロジェクト／センターは適切に運営されているか。
 c: 中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
 d: 調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
 e: 中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成22年3月15日(月)実施 外部評価結果

プログラム ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各プログラム／センターに関わる事項							
	平成21年度実績					平成22年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
栄養教育 プログラム	4.00	3.71	4.00	3.71	3.86	3.86	7	(I)各プログラム／センターに関わる事項 【平成21年度実績】 ・食育について新しい視点での取り組みが特に必要と思う。 ・全般的に研究活動内容が少ない印象を持った。 ・「新たな栄養表示」の実社会での有効な活用方策・方法が今後の課題であろう。 ・食育という広い研究課題の中から要点をおさえた研究を行っている。 ・生涯を通じた長いスパンでの対応は必要であり評価できる。 ・母子健康手帳の解析に興味を持ちます。若い女性のダイエットは長年の日本特有の課題で、ますますエスカレート。胎児→出生児→その後の成長にとりかえしのつかない事態を招くでは困ります。正しい教育と実践の場が急務です。 【平成22年度計画】 ・引き続き栄養指導の開発に期待する。 ・栄養表示の開発実施に向けて、一人一人に理解度が高まるように、全体の知識の底上げが必要です。

◎各プログラム／センターの評価項目

- a: 中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b: 中期目標の達成に向けてプロジェクト／センターは適切に運営されているか。
- c: 中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d: 調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e: 中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成22年3月15日(月)実施 外部評価結果

プログラム ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各プログラム／センターに関わる事項							
	平成21年度実績					平成22年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
基礎栄養 プログラム	4.17	4.00	4.00	3.83	4.00	4.17	6	(I)各プログラム／センターに関わる事項 【平成21年度実績】 ・興味深い ・今後起こりそうな問題への対処も必要であろう。 ・LKB1、PPAR γ 2、食事制限に係る研究成果はいずれも有用かつ質の高いものである。 ・プログラムの規模が小さいため、トピック的な課題のとらえ方となっている。 ・生活習慣病等の基礎となる研究であり、成果は評価できる。 ・基礎研究は実験動物レベルの成果にとどまり、その時点で即発信というわけにはいかないのが、宿命だと思います。 【平成22年度計画】 ・今後の成果を期待する。

◎各プログラム／センターの評価項目

- a: 中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b: 中期目標の達成に向けてプロジェクト／センターは適切に運営されているか。
- c: 中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d: 調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e: 中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成22年3月15日(月)実施 外部評価結果

プログラム ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各プログラム／センターに関わる事項							
	平成21年度実績					平成22年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a~d)	e. 計画の妥当性		
食品保健機能 プログラム	4.00	4.17	4.17	4.00	4.08	4.17	6	(I)各プログラム／センターに関わる事項 【平成21年度実績】 ・トコリエノールの包接化合物の有用性をより明らかにすることを望む。 ・個別のテーマについての成果は良好である。 ・分析法の開発、室間試験などの業務的な仕事をしつつ、T3、BBIなどの研究のような独自の研究も行っており、きちんと評価を出している。 ・定型の検定業務をよくこなすかたわら、研究業績も上がっている。 ・分析法の精度管理等、評価できる。 ・特保の許可試験ですが、エコナ事件のその後の解明にまで対応して欲しいです。特保制度は結局は企業の儲けにつながっただけという結論にならないようにして欲しいです。 【平成22年度計画】 ・トピック的テーマも取り込んだ方がよい。 ・成分の併用効果の研究は重要である。 ・研究所の独自性を期待する。 ・食品機能と生体利用との関係、引き続きお願いします。

◎各プログラム／センターの評価項目

- a: 中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b: 中期目標の達成に向けてプロジェクト／センターは適切に運営されているか。
- c: 中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d: 調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e: 中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成22年3月15日(月)実施 外部評価結果

プログラム ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各プログラム／センターに関わる事項							
	平成21年度実績					平成22年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
情報センター	4.50	4.17	4.17	4.33	4.29	4.17	6	(I)各プログラム／センターに関わる事項 【平成21年度実績】 ・情報発信についてよく考えられており、高く評価したい。 ・作成した情報は良く利用されている。ウイキペディアと異なり、科学的基盤に支えられている意味がある。 ・きめ細かい情報を適切に提供している。 ・非常に多くの情報の発信・発信を行っている。 ・IT技術の研究に力が入っている。情報発信にも取り組んでいる。 ・エビデンスに基づいた多くの情報発信がされており、評価できる。 ・予算がサーバーの維持費として使われているのことに驚きましたが、充実した情報発信の基盤が構築できたと実感します。 【平成22年度計画】 ・この方向性は良い。 ・質を保った継続を期待する。 ・中立の立場での情報発信が重要です。これは民間にはできないことです。

◎各プログラム／センターの評価項目

- a: 中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b: 中期目標の達成に向けてプロジェクト／センターは適切に運営されているか。
- c: 中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d: 調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e: 中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成22年3月15日(月)実施 外部評価結果

プログラム ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各プログラム／センターに関わる事項							
	平成21年度実績					平成22年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
国際産学連携 センター	4.00	3.83	3.50	3.83	3.79	3.83	6	(I)各プログラム／センターに関わる事項 【平成21年度実績】 ・海外との連携について選ぶ方式について工夫が必要と思う。 ・NRは5年目となり、フォローもしっかり行くと役割も高くなる。 ・少人数で多方面と多様な連携を行い、かつ論文も出している。 ・国際貢献とNR制度の確立のための地道な努力が続けられている。 ・国内外の交流やシンポジウム、セミナーなどの開催がされており、成果が認められる。 ・NRの存在はまだ知られていないと思います。広く一般の国民に知ってもらい、その役割を理解してもらうには、現場(薬局の店先)で活動し、実績を積みしかありません。生活全般の疑問に答えられるスタンスが必要です。 【平成22年度計画】 ・NRは他の資格との優位性確保をお願いする。 ・国内外の研究者、他機関との引き続きの交流を望む。

◎各プログラム／センターの評価項目

- a: 中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b: 中期目標の達成に向けてプロジェクト／センターは適切に運営されているか。
- c: 中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d: 調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e: 中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成22年3月15日(月)実施 外部評価結果
(Ⅱ) 研究所全般にわたる事項

評価項目	評価	評価者数	コメント
① 研究所の目的、理念に合致した運営がなされているか。	4.25	4	・評価できる。
② 効率的な組織・予算運営がなされているか。	4.50	4	・限られた予算と人員の中で工夫がなされている。 ・少ない人員、予算にもかかわらず、多くの業務を適切に行っており、成果・結果を出している。 ・特に運営には問題ないと思われる。
③ 研究成果は十分出ているか。 (学術論文、学会発表等)	4.75	4	・インパクトファクターの高い論文を多く発表していることは特筆すべきである。 ・人員に比して研究成果は極めて多く、優れている。 ・研究成果は十分出ていると思われる。
④ 倫理規定、倫理委員会は適切に運用されているか。	4.25	4	・特に問題はなさそうである。 ・適切であると認められる。
⑤ 研究成果の社会還元は適切になされているか。(セミナーの開催、情報提供、知的財産の活用等)	4.75	4	・全体的には積極的な姿勢が評価できる。 ・HPIにおける多様な情報発信をしており、ますます充実してきている。 ・適切な社会還元が認められる。 ・ホームページの充実、施設の開放、セミナーの開催、研究と平行して行うことのご苦労がわかります。
⑥ 他機関との連携や協力は適切になされているか。(受託・共同研究、連携大学院、国際協力、人材育成等)	4.00	4	・適切な連携や協力が認められる。
総合的なコメント			<ul style="list-style-type: none"> ・従来型の栄養と健康の関連性については十分な成果が得られている。今後、低体重児と成長との関連性に重点を置いて欲しい。栄養と発達障害とは何か関連があるのでしょうか。 ・国民の健康維持・増進に大きな貢献をする研究、情報発信、啓蒙を行っており、国民の生活習慣の乱れが話題となる今日、研究所の役割はますます大きくなっている。また、その責務に応える実績を上げている。 ・改組の予定であったが、政権交代による事業仕分けを待つという微妙な状況の中、鋭意業務に取り組んでいる姿がうかがえる。 ・各プログラムやプロジェクトの成果が徐々に出てきており、今後も継続した研究成果が出ることを期待する。 ・一般へのPRを含めた情報提供等の活動が重要と思われる。 ・90年になる研究所の諸活動、諸研究を国民の健康維持・増進のために継続して行うべきです。今後、消費者庁との仕事のすみ分けなど、組織上のことで国民への情報発信が遅くなったり不備になったりすることのないように願っております。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

独立行政法人国立健康・栄養研究所外部評価委員会委員名簿

平成21年4月現在

委員氏名	所属・職名
○五十嵐 脩	社団法人 栄養改善普及会会長 お茶の水女子大学名誉教授
伊藤 裕	慶應義塾大学 医学部教授
逢坂 哲彌	早稲田大学理工学術院 教授
加賀谷 淳子	日本女子体育大学 客員教授
加藤 則子	国立保健医療科学院 生涯保健部長
川島 由起子	聖マリアンナ医科大学病院 栄養部長
豊田 正武	実践女子大学 生活科学部教授
林 徹	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 所長
三保谷 智子	女子栄養大学 出版部 編集長

・敬称略、五十音順 ○:委員長